

1. ボーダーレスサークルの紹介

私はボーダーレスサークルという、留学生と交流するサークルに入っています。ここでは様々な国籍の人が交流しています。国籍だけでなく、年齢や人種も境界なく接しています。

ボーダーレスサークルに入ったきっかけは、多文化交流ラウンジで行われた留学生とのランチです。教室に入った瞬間、笑い声があふれていて圧倒されてしまいました。すでにその場にいた人達は仲良く話していたので、その中へ入っていけるか不安でした。しかし外国人の方から日本語で話しかけてくれたり、ボーダーレスサークルを紹介してくれたり、快く迎えてくれたので、すんなり溶け込むことができました。

以前は異国の人に話しかけると、どうしても言葉が気がかりになってしまい、あまり積極的になれませんでした。しかし相手は日本語に多少不安があっても気軽に話しかけてきてくれ、日本語能力を伸ばすと同時に、自分の世界も広げていきます。私も言語の細かい間違いを気にせずにとんどん話しかけるようにして、以前の私のように消極的な人に、外国人と交流することの楽しさを知ってもらいたいです。

私がボーダーレスサークルに入って3カ月も経たないうちに、ほとんどの留学生が帰ってしまい、非常につらい思いをしました。楽しい思い出ができればできるほど別れがこわいので、新しい留学生が来てもつい別れのことを考えてしまいます。

悲しいこともあるサークルですが、それに負けなくらい楽しくて面白くて嬉しいことがあります。それに帰ってしまった留学生達とは、今でも Facebook を通して連絡を取ることができるので、それがすごく心の支えになっています。外国人と友達になるということは、もちろん語学の勉強にもなりますが、それより言葉や国籍、人種など様々な壁を乗り越えて楽しい時間を共有しているということです。そんな時間を共有できた仲間は、たとえ日本で交流した時間が短かったとしても、一生の友達になります。

日本にいて多くの外国人と接することができる、このボーダーレスサークルという居場所は、私にとって宝物のようなコミュニティです。

2. インタビュー相手

8月にケニアに帰ってしまった交換留学生のアッシさんにインタビューしたいと思います。アッシさんは自分の友達を増やすだけでなく、いつも自分の友達同士を友達にしようとしてくれて、ボーダーレスサークルの中で輪を広げてくれたので、インタビューしたいと思います。私がずっと特定の友達とばかり話していたり、一人で黙っていたりすると、アッシさんは怒ります。そして自分の友達を連れてきて私に紹介してくれます。名前だけ紹介したらアッシさんはどこかへ行ってしまい、無理矢理私とその友達に会話させようとします。やり方は少し強引ですが、アッシさんのおかげで友達になれた人は沢山います。アッシさんのように、私も自分だけでなく、周りの人の友達の輪を広げていきたいと思っています。

3. インタビューの結果

アッシさんはケニアに帰国し、直接インタビューできないため、Facebook を使ってインタビューしました。アッシさんはテスト期間だったため、数日間かけて合計 1 時間ほどインタビューしました。

私：授業でボーダーレスサークルについてレポートを書いている、アッシにインタビューしたいんだけど、アッシにとってボーダーレスサークルはどんな場所？

多分メールを見ていなかったと思うのですが、4 時間経っても返信が来なかったのもう 1 度尋ねてみました。

私：ボーダーレスサークルについてどう思っている？難しいかな？

30 分後に返信してくれました。

アッシ：私にとって、ボーダーレスサークルは色々な国から来た新しい友達を作れる所だよ。沢山の友達と話せて楽しい。だから難しくないよ。

笑っている絵文字をつけて答えてくれました。やはりアッシさんも、ボーダーレスサークルを語学の勉強の場というより、仲間を作って交流する場と考えているようでした。

私：いつ、誰といる時に楽しいって思う？

アッシ：げんき達とおしゃべりしている時

と笑って答えてくれました。アッシさんは最初、「日本人の名前は覚えにくいから皆“げんき”っていう名前だったらいいのに」と言って、ボーダーレスサークルの 1 年生 4 人を“げんき 1、2、3、4”と呼んでいました。でもアッシさんは皆と仲が良いので、「誰といる時楽しいか」と聞いた人の名前を挙げると思います。

私も、皆と出かけたりゲームをしていたりしていなくても、話をしているだけでも楽しいです。

私：今はケニアにいるけど、日本に来た時にボーダーレスサークルで何をしたい？

アッシ：沢山の友達を作って海へ行きたい。そしてソフトクリームを食べてスキーをして旅行もしたい。

私：アッシは海が好きだもんね。じゃあボーダーレスサークルをどうしていきたい？

アッシ：どんどん皆に友達になって行ってほしい。

やはり 100 人以上いるので、同じサークルに所属していても知らない人は沢山います。しかしアッシさんは、ケニアに帰国する前に「ボーダーレスサークルの皆のこと知っている。皆友達。」と自慢げに言っていました。もしサークルの集まりで知らない人がいたら、必ず話しかけて自己紹介をしていたからだと思います。アッシさんは日本語がとても上手なので気軽に話しかけていました。お互いの言語がよく分からないと、やはり仲良くなるのは難しいです。しかし仲良くなりたいと思って、お互いに言語を一所懸命勉強していただくだけでも、とても良い関係だと思います。私も勉強するだけでなく、積極的に話しかけていきたいです。

ボーダーレスサークルは 1 年間の交換留学生在が沢山います。しかし私もアッシさんも交流期間が短かったとしても、1 年間、あるいは大学に通っている間だけの友達としてではなく、一生の友達を作れるようなサークルにしていきたいという結論に達しました。

私：ありがとう！！今テスト期間で忙しいのに答えてくれてありがとうね。またね。

アッシ：ありがとう。またね

4. ボーダーレスサークルと私

私は将来、秋田で看護師の仕事をしていきたいと考えているので、忙しくなると思いますが。海外旅行する機会が多く持てるか分かりません。だから今、日本で留学生達と沢山交流できるボーダーレスサークルという場は、私にとって本当に貴重なコミュニティです。外国人と交流する機会が少ないから大切というより、単に一緒にいてすごく楽しいので大切に感じます。

帰国してしまった留学生でも、ボーダーレスサークルをやめたわけではありません。アッシさんのように、数年後にまた日本を訪れたいと言ってくれる留学生は沢山います。日本にいないので直接交流はできませんが、**Facebook**でその人の写真を見たり話をしたりできるので、近くにいるような気分になります。それにいつ秋田に帰ってきても、またボーダーレスサークルの一員としてすぐ溶け込めます。

私は医学部なので、2年生から毎日本道キャンパスの方へ通います。手形キャンパスにあまり行かなくなるので、ボーダーレスサークルの皆ともあまり会えなくなりますが。しかし学校であまり会えなくても、私達は話したい時に話せて、会いたい時に会えます。活動が今より活発にできなくても、皆との時間はずっと大切にしていきたいです。そしてボーダーレスサークルは、帰国した留学生も合わせると100人以上いるので、今仲の良い友達とばかり交流するのではなく、どんどん新しい友達を増やしていきたいです。私の周りには国際交流をしたいけどボーダーレスサークルのことを知らないという人がけっこう多いので、これからも紹介していきたいです。

5. クラスについての感想

このクラスは課題が多いと聞いたので、最初は受けようか少し迷ったのですが、来年から手形キャンパスで授業がとれないし、どうしても留学生と授業が受けたかったので履修を決めました。

中国人、韓国人などの日系の留学生が予想以上に多くいましたが、日本人と比べてとても積極的に発言するという印象を受けました。私も留学生に刺激されて、自発的に発言し授業に参加するようになりたいと思いました。

自分にとって大切なコミュニティなんて考えたことはありませんでしたが、なぜ大事に思っているのか考えたり、インタビューを通して相手の意見が聞けたり、それを他の人に紹介したりして、楽しく充実した授業でした。ボーダーレスサークルについてグループ以外の人にも「楽しそう」と言ってくれて、とても嬉しかったです。ボーダーレスサークルのことを多面的に考えることで、単にサークルを楽しむのではなく、自分の役割ややりたいことを見つけることができました。

その人にとっての大切なコミュニティについて、尋ねたことも考えたこともありませんでした。この授業で沢山の人の大事な場所に対する考えを聞けて、興味深く思い、視野が広がりました。毎週月曜日を楽しみにしていました。本当にこの授業をとって良かったです。